

日本NIE学会愛知大会



NIE学会で活動報告をする高校生

NIE（教育に新聞を）について研究する日本NIE学会（会長＝土屋武志・愛知教育大学名誉教授）の第22回愛知大会が9月27日、名古屋市名東区平和が丘の愛知東邦大学で開催された。同学会が名古屋で開催されるのは12年ぶり。今回のテーマは「確かなニュースをどう届けるか、どう発信するか～多文化共生社会のNIE～」。大会には学会会員の大学、高校などの教育関係者や全国各地の高校生やメディア関係者らが参加し、さまざまな議論や発表が行われた。弊社も大会に協賛した。

「確かなニュースをどう届けるか」研究成果を発表

大会のメイン会議、シンポジウムは2時間にわたり大会テーマについて、5人のシンポジストがそれぞれの立場から意見を発表。続いて会場（中継会場を含めて）の参加者らが数人ごとのグループで話し合いながら、確かな情報とは何か、どう届けるか、などについて議論し、テーマを掘り下げて、参加者全員で考えるユニークな形式で行われた。

シンポジウムのコーディネーターは日本NIE学会会長の土屋武志・愛知教育大学名誉教授と西尾圭一郎・大阪公立大学准教授が務め、シンポジストは石岡史子・NPO法人ホロコースト教育資料センター代表、今井善太郎「レイのブログ」開発者、大河仁美・愛知県立豊橋西高校教諭、長澤江美・スマートニュースメディア研究所研究員、臼田信行・中日新聞社相談役の各界を代表する5人。

石岡氏はホロコーストの歴史を教材に平和、人権を考える活動をしていて、ユダヤ人の最大、約110万人の殺害現場、アウシュヴィッツでワークショップを行っている。ナチスはユダヤ人を一括りにしたが、信仰や思想、髪や肌の色などは様々だった。ナチスが祖父母4人の

うち3人がユダヤ教の人間をユダヤ人としてその曖昧な線引きをしたこと考えると、私たち日本人の確証は何か、と問いかけ、歴史と向き合うと当時の人の声が自分に向かってくると話題提供した。

今井氏はメディアリテラシー、情報リテラシーをもっと楽しく届けられないかと考えて活動しているとして、前のめりになるような面白い授業を提案している。レイのブログは情報の確証などについてゲームを通じて学べる取り組みで、導入した中学校の生徒が楽しく授業を受けていて、英語版、中国版を作成。アニメ効果もあり、多国籍の子供も面白がっているという。



シンポジウムで意見発表した大河仁美 県立豊橋西高校教諭

大河氏はフェイクニュース時代の情報メディアリテラシーを育成するプロジェクトの実践校としての活動を紹介。生徒たちに自分たちが何を伝えたいのか、話し合うよう提案。発表の舞台を目標に